

第 4 3 回
神奈川県
美術展

The 43rd Kanagawa Art Exhibition 2007

第43回 神奈川県 美術展

The 43rd Kanagawa Art Exhibition 2007

1期展 [平面立体] 平成19年9月12日(水)-9月23日(日)

2期展 [工芸・書・写真] 平成19年9月26日(水)-10月7日(日)

会場 神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展 平成19年10月11日(木)-10月21日(日)

休館日：10月16日(火)

会場 厚木市文化会館展示室

主催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県

共催
(財)厚木市文化振興財団

協賛
(財)神奈川県美術奨学会／(財)はまぎん産業文化振興財団／
ユニアート／(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会／
(株)ニコン

後援
神奈川県市長会／神奈川県町村会／神奈川新聞社／NHK横浜放送局／
テレビ神奈川／TVKエンタープライズ／FMヨコハマ

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年多くの皆様から意欲あふれる作品をご出品いただき、神奈川県美術展を開催できることを、主催者の一員として心からうれしく思います。

昭和40年の第1回展以来、今年で43回を迎えるこの美術展は、県内最大規模の公募形式の総合美術展です。芸術家を志し日々研鑽を積まれている方から、趣味として創作活動を楽しんでおられる方まで、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる美術展として、多くの方々に作品発表の機会を提供し、活動の励みにしていただいてまいりました。また、本美術展の入賞を契機に、全国規模の美術展で入選を果たされるなど、活躍の場をさらに広げられた作家の方も数多くいらっしゃいます。

今年も、平面立体、工芸、書、写真の各部門を合わせて2,123点もの応募作品の中から、厳正な審査を経て選ばれた入賞、入選作品591点が展示されています。素晴らしい作品の数々はご来場の皆様を魅了し、神奈川の芸術水準の高さを改めて認識していただけるものと思います。

心の豊かさが求められる時代にあって、文化芸術の果たす役割はますます大きくなっています。県といたしましても、一人ひとりが心豊かに生き生きと暮らすことのできる地域社会の実現をめざし、県民の方々が多彩な文化芸術活動に親しみ、参加できる環境づくりに取り組んでいます。本美術展の開催を通じて、県民の皆様の文化芸術活動がより一層活発になり、本県の文化芸術のさらなる振興につながることを期待しています。

最後に、このたびご出品くださいました方々の創作にかけられる情熱に深く敬意を表しますとともに、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様に心からお礼申し上げます。

平成19年9月12日

神奈川県知事 松沢 成文

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第43回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に1,199人、2,123点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、522人、591点の作品が選ばれました。この数年、応募者数も増えてきており、今年は例年より多くの方々が入選されております。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生を作りあげていく大切な時間であると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、財団法人はまざん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、ユニアート（株式会社ユニリビング）様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成19年9月12日

神奈川県美術展委員会委員長 原 範行

受賞作品目録

平面立体

大賞	小笠原 森	鎌倉市	untitled	立体
準大賞	松沢 真紀	相模原市	夜	平面
特選	菅原 隆彦	横浜市	Colony '07	立体
特選	山本 貴大	相模原市	1・6・1200 n	平面
特選	北川 伶菜	相模原市	海	平面
県議会議長賞	真鍋 修	横浜市	朽ちゆく箱	平面
県立近代美術館賞	菊池 忍円	鎌倉市	無題	平面
美術奨学会賞	堀井 寿乃	横須賀市	tangible emotion	立体
はまぎん財団賞	建部ひろ子	横浜市	ここにある 07-7	平面
ユニアート賞	飯村 優介	横浜市	カイヘキトウヒト I	平面

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※ユニアート賞は、ユニアート（株式会社ユーリビング）から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

吉田 光児	左の宝珠
関根 稔	鮎つかみどり大会（あつぎ鮎まつり）
瀧澤 潔	degestion-消化-
西川洋一郎	堆積する記憶
島田 勇	頽落（たいらく）
鷗原 友香	Walking paradise ~湘南の風に誘われて~
関水 英司	森の掟
八木 厚紀	ラムナの気持ち
浜田 澄子	エメラルドの山
井上 千穂	出発点
岩野 雅代	やさしい場所
栗原那津子	hurry up!!
今井 利香	わたしたちの儀式
西尾 真代	寝転がる
蛭田裕紀子	最後から2番目の希望
小口ウィリアムズ 志伊菜	a bath room
福田 千穂	花
古賀 現宇	記憶の部屋
青木 志子	はなふる
重田 知美	遠い街
内藤 克子	作品 刻Ⅱ
村上由紀子	丘の風
石井いつ子	DIARYかも知れない
竹村 芳樹	戦争
大塚とみ子	書き
江上 伸	トンファー②
梶山 文伸	空と海Ⅱ
澤田 サチ	躍動その靜なるもの
鈴木 滋子	空へ行く為のメモ
中山 智介	141.UNTITLED.2007
戸田みどり	Living waters 生ける水
福田 直子	ヒトがモノになる時
岩瀬 哲夫	ふたり
高橋美恵子	浸食 2
黒川 洋	空三景（アンテナ・電柱・電線）
清水 知子	アノムコウ=B
岩永 洋美	空の下の線
茂野 生世	Untitled 1
永吉 秀司	ヒルサガリ
中村 太一	Landschaftmaler

有賀 礼	untitled
YOKO・田中	風の詩（うた）
山本 藍子	肉はつくられる
堀川 祥一	空ノタメニ
中島 公子	RW和07-B
小島 翠	'07ファミリー I
大小島真木	そこにある
向後 茉莉	雅
沈 采媛	時空への入口
原 汐莉	ある人の肖像
中澤 務	結び目には辿り着けない
内山貴久子	戯れ
中村瑛利子	komorebi
瀧 香織	Floatin Green
安藤由香里	手
内村 鮎	aloha
立川 公子	浄水場
平部るり子	空とぶ
加納 貴弘	安曇野
羽柴 華奈	area
小平 功一	I'm going home
門間 由佳	M氏の像
岡本ヒロシ	love call 2007-3
木下 愛美	草々一つづれー
岡 宏治	Pond
渡辺 勇	生命体シリーズ「上昇する植物オブジェ」
NEMIKA	アー・樹・テクチャーNo.01,02,03
野口 英史	つかのまの日
新井 哲	07 投下される物体
小澤はるみ	Intimacy -4°C
高橋 洋子	空感Ⅱ
関 迪子	コンポジション I
国方 房子	刻の記憶（II）
渡辺 幸子	影 I
安齋 歩見	脈-赤3つ
平野のり子	season I
久保 恵子	作品 07- II
肥沼 守	航海譚～Festa～
田辺いづみ	静かな光
石田 澄江	明日を願う

立体

西野入 礼	ビャクシン	内田 充	和美
根本 雅行	交錯する景色	長谷川双葉	地下洞を走れ海に至れ
趙 丹娜	跡	野口 美香	ある夜のできごと
大橋 幹	デイライト	高梨 裕理	水標（すいひょう）
亀山 治代	景Ⅱ	田中 史子	傳神開手十二編－風
新恵美佐子	花	吉見 香菜	Re:Re:Re:
大城 勝	PW0702偶有的選択	横田 典子	●より
田澤 優	行方Ⅱ	松本 理沙	regenerate
雄鹿 靖二	繁殖地A	志村 正之	道
むらたやすひこ	275のカルタ	中村 琢磨	poolside sight
佐藤 陽	祠（ほこら）	大和田詠美	地球バイバイ
福井 道顕	ばーど落っちんぐ	大久保具視	Inside out blue
柴田 豊	Distant Scenes	赤井 太郎	da 打 da
小松 ゆか	罅下（かか）	山本 秀明	生痕（せいこん）
安田 文夫	LIVE IN SHONAN	玉置 りさ	THE MOTHER
		山本 豊彦	侵蝕

平面立体

平面立体の審査を行なった。最近は特に表現の自由な解釈がなされ、立体造形と工芸の境界線があいまいになり、また、平面にしても、油彩や岩絵具、アクリルにこだわらず、画材を自分なりの工夫で選び出し、表現する人も出てきている。例えば、大賞をとった小笠原森氏の「untitled」は、陶で制作されている。工芸に出品されてもおかしくないように思われる。それは、美術奨学会賞を受賞した堀井寿乃氏の「tangible emotion」についてもいえることかもしれない。この作品のアクリルや板や羊毛を使った作品には、生理的に衝撃を与えた。それだけが事実である。工芸はあくまで実用のものであり、立体は、実用とは異なる、いわゆる純粋美術なのだとといった意見もあるが、もはやそれだけで定義できるものではないことは、会場にこれらの作品が展示されればはっきりするであろう。もはや部門の境界をこだわる必要などないといえる。

見るものの心を少しでも揺さぶることができれば、制作する意義は十分あったわけだ。賞をとった人たちの作品はその観点から言えば、審査をした者たちの心を大いに揺さぶったといえよう。大賞の作品は、その大きさ、黒という色、形、申し分なく、その場で存在感を示し、他の作品を圧倒していた。

特選の菅原隆彦氏の「Colony '07」は、しっかりした構築力で、真摯な仕事振りを示した。また、別の特選を受賞した山本貴大氏の「 $\frac{1 \cdot 6 \cdot 1200}{n}$ 」は、木と、鉄とペンキをつかって画面の沢山の矩形による色彩構成で見るものの網膜を幻惑させた。

多くの審査員から注目されたのが、準大賞をとった松沢真紀氏の「夜」である。空から地上を見下ろす視点で、空間を捉える斬新な表現が評判を呼んだのである。やまと絵の雲の表現を現代風にアレンジしたとか、3人の人物の描きわけから時間の流れをつかむことができるとか、見ていていろいろと考えさせてくれる作品となつており、将来性を感じさせた。特選の北川伶菜氏の「海」や県立近代美術館賞の菊池忍円氏の「無題」などは、一見、優しさにつづまれながら、その奥底には時代の不安が見え隠れする作品となっている。まさに時代を象徴する作品といえよう。

はまぎん財団賞の建部ひろ子氏の「ここにある07-7」は、堅実な抽象表現で、絵画の本道を歩むがごとき爽快感を感じさせてくれた。県議会議長賞の真鍋修氏の「朽ちゆく箱」には、テレビという文化のもろい側面を照射し、静かに環境問題を訴えている。ユニアート賞の飯村優介氏の「カイヘキトウヒト！」も、抽象表現による内面的なものを引き出そうと格闘した作品として好感を持たれた。

このように通観すると、神奈川県展の出品作品は皆水準が高く、さらに、技法的な面や思想的、感性的な面でも見るものが考える以上に広がりと深みを持っており、将来的にさらに興味深い作品が出現することを予感させてくれる。

(橋秀文)



大賞 *untitled* : 小笠原 森

陶 600×160×140cm 800kg

[略歴]

1978年 東京に生まれる

2003年 多摩美術大学美術学部工芸学科陶プログラム卒業

2005年 多摩美術大学大学院美術研究科 工芸卒業

多摩美術大学美術学部工芸学科陶プログラム副手

2007年 多摩美術大学美術学部工芸学科陶プログラム助手 現在に至る

[展覧会歴]

2002年 アートユニバーシアード 菜の花の里美発見展（千葉県土気駅前バーズモール内作品展示）

2003年 The Department of Fire Graduation Works Exhibition 2003 (スパイラルガーデン 東京 青山)

ドイツ交流展（多摩美術大学）

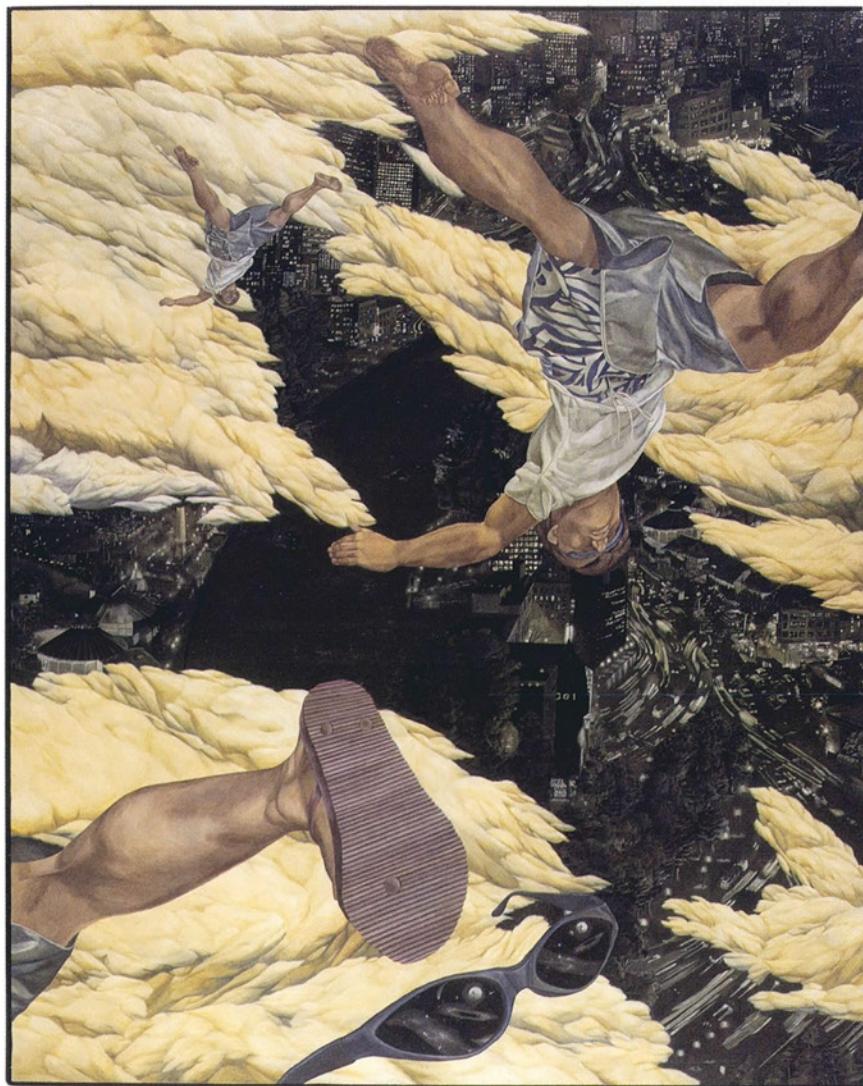
史水展（ギャラリー風 東京 銀座）

バイロ展（gallery GAN 東京 青山）

2004年 shin ogasawara exhibition (toki art space 東京 青山)

2006年 中村錦平プロデュース 〈クレイコネクション by フリーター〉展 (スパイラルガーデン 東京 青山)

2007年 shin ogasawara exhibition (toki art space 東京 青山)



準大賞 夜：松沢 真紀

カンヴァス、油彩 227.5×182cm

[略歴]

1982年 横浜市生まれ

2007年 女子美術大学 絵画学科洋画専攻卒業

女子美術大学大学院 美術専攻洋画研究領域入学 現在に至る

[展覧会歴]

2007年 松沢真紀展（相模原市民ギャラリー 相模原市）

[出品歴]

2003年 杉並アート公募展入選

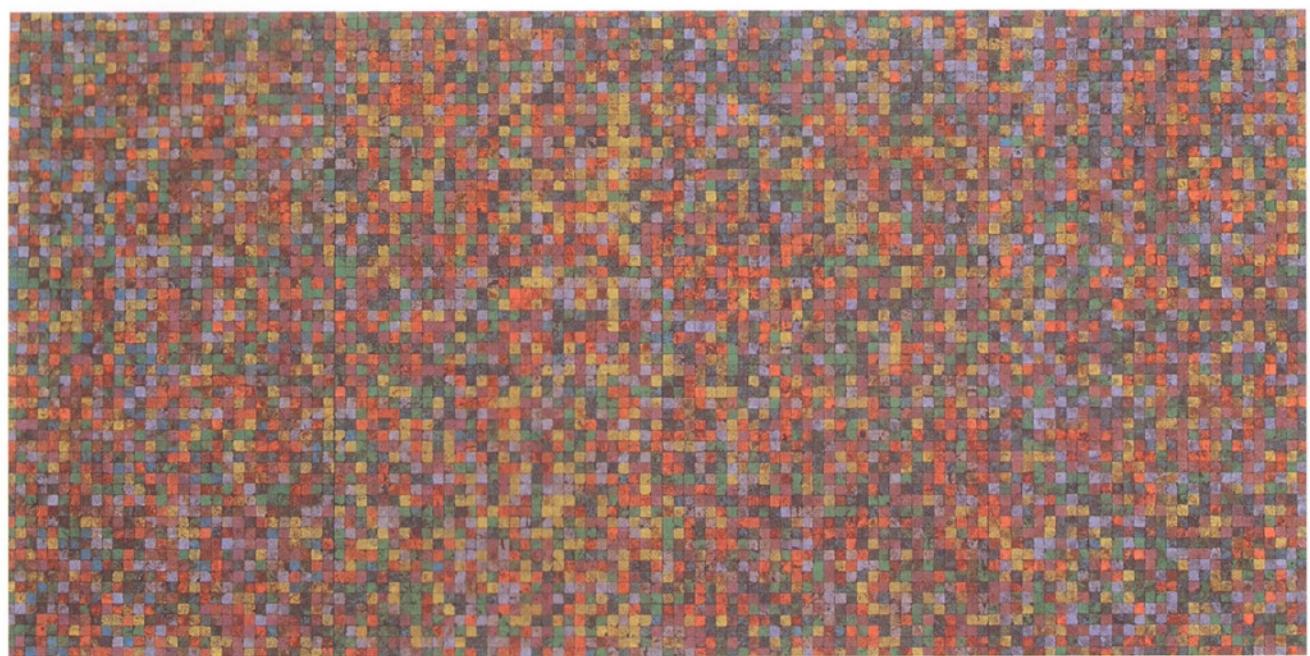
2005年 神奈川県美術展 はまぎん財団賞
世界堂絵画公募展 クサカベ賞

2006年 世界堂絵画公募展 中里賞
2007年 女子美術大学卒業制作賞



特選 Colony '07 : 菅原 隆彦

鉄 205×165×72cm 800kg



特選 $\frac{1 \cdot 6 \cdot 1200}{n}$: 山本 貴大

木、鉄、ベンキ 120×238cm



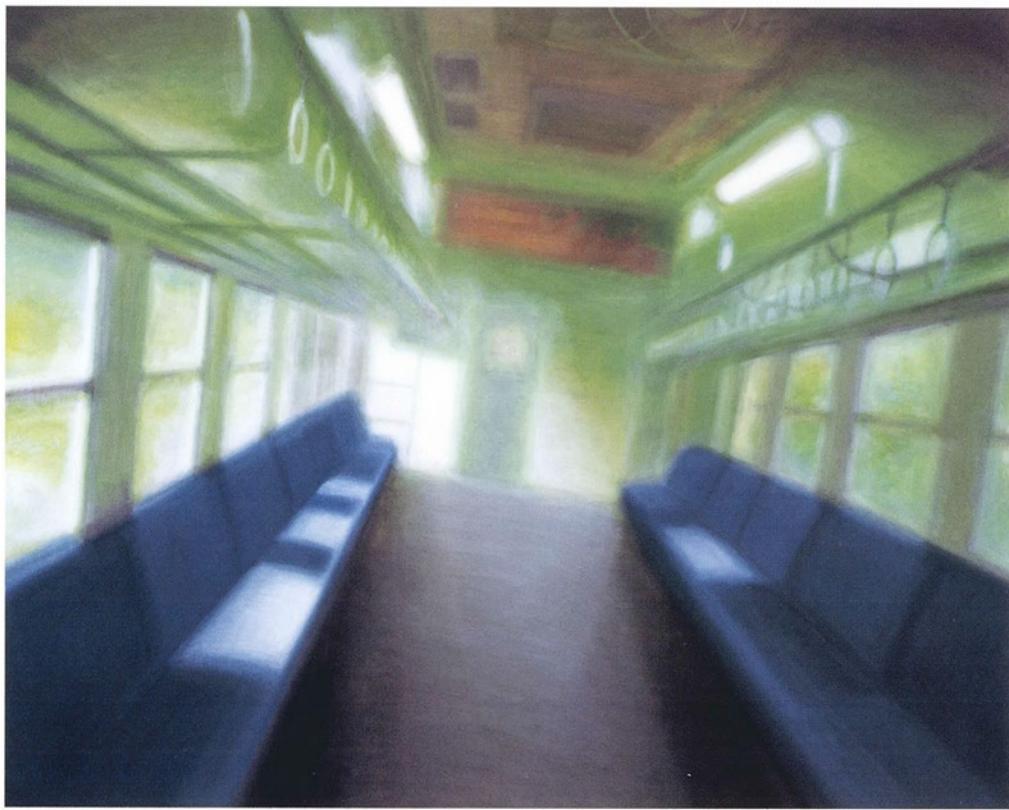
特選 海 : 北川 伶菜

キャンバス、油彩 162×194cm



県議会議長賞 枯ちゆく箱：真鍋 修

こうぞ紙、パネル、岩絵具 182×227cm



県立近代美術館賞 無題：菊池 忍円

キャンバス、油彩 182×227cm



美術奨学会賞 tangible emotion : 堀井 寿乃

アクリル板、羊毛 200×132×154cm



はまぎん財団賞

ここにある 07-7 : 建部 ひろ子

キャンバス、油彩、オイルバー 227.5×182cm



ユニアート賞

カイヘキトウーヒト I : 飯村 優介

キャンバス、油彩 227.3×181.8cm

受賞作品目録

工芸

大賞	吉田 晴弥	川崎市	源の始まり	陶
準大賞	渡辺季代子	東京都	森羅	染色
特選	貴田 洋子	東京都	森に舞う	織
特選	十倉 滋子	鎌倉市	星空点々	染織
特選	岡崎まりこ	横浜市	記憶の中の夏	人形
特選	上原恵美子	横浜市	大地の恵	七宝
美術奨学会賞	池田 節子	相模原市	精	染織
美術奨学会賞	上野 智恵	綾瀬市	彩	ガラス
大塚学院賞	今林三恵子	横浜市	畝	鍛金

書

大賞	矢島 虹周	横浜市	小倉山
準大賞	日吉 青溟	湯河原町	感春雜詠 其一
特選	奥野 知行	横浜市	好球必打
特選	藤野 菁浦	横浜市	李東陽詩
特選	庵 蒼淵	横須賀市	守仁詩
特選	横山 翠扇	海老名市	山河の瀬
美術奨学会賞	茂住 菁邨	川崎市	侯嬴
美術奨学会賞	山本 枝折	横浜市	「神隠し」より
神奈川県文具事務用品団体連合会賞	竹内 菜緒	横浜市	トンパ文字 塗る

写真

大賞	市川 雅章	横浜市	夢売り場
準大賞	田中 洋一	藤沢市	苔むす戦痕（せんこん）（3枚組）
特選	宮坂 駿一	横浜市	排気筒
特選	黒野 秀子	横浜市	遊び終えて
特選	坂巻 孝	横浜市	子供天国（3枚組）
特選	長尾 宏	横浜市	風が見える街（3枚組）
特選	荒島 謙一	横浜市	永い眠り（3枚組）
特選	高浦 正幸	横浜市	記憶の向こう（3枚組）
美術奨学会賞	和田 湖人	横浜市	スクランブルの間（3枚組）
美術奨学会賞	谷田 梗歌	横浜市	旋律の湧くとき
ニコン賞	星崎 裕基	小田原市	静かな季節（3枚組）

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※大塚学院賞は、(学)大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

山口 迪子	浮き草
古谷 史	異郷（カシュガル）の憶い
門田 真幸	ホタテ貝のランプ
糸井惣四郎	縄文譜=鳳凰双耳壺
河端 一恵	TIT
砂山 憲子	帯、絹緯絞吉野間道
五明 永羽	彩映
大西 清治	備前花入
葉山 早苗	信楽抹茶茶碗
山本 裕子	流流（るりゅう）
石川ヤイ子	日本刺繡 つゆ
岡田 光子	冬の夜
山内 幸代	蒔繪花文飾籠
香取 孝彦	鳥影 とりかけ (The shadow of the birds)
柴田 菜月	逃げ道の行方
秋山 泰宏	キリン
斎藤智恵子	葡萄の古木
中島貴美枝	練込鉢
井上 心生	異根同吼
古川 明子	瓢箪 裁縫箱
乙坂 明生	掌間
光富 さよ	躍動
堀口 成依	心電図
天野 奈迦	光彩
明知萬之助	晩秋
土屋 祐康	象嵌三角文花器
宗像 昭	釉彩輪花大鉢
鈴木 博	大皿
鈴木 亘	靜寂（練上）
渡辺 稔浩	風に立つ
五十嵐通代	コリアンテⅡ
佐藤美津子	丸盆（ふじ）
鎌田 澄江	嵐
西海 靖	良寛の詩をモチーフとした創作面3連作
井上 恵介	樹皮紋灰釉山並深鉢
高橋 英昭	うつわのかたち
大原 乾資	麻布 藍の板締染
神田みゆき	KU-MO/彌
宮井喜久子	野の草のように
宮崎 純子	5月のサギ

大槻 洋介	Life
青野 千穂	滲む
佐藤 智子	一望千里
原田 征史	西方浄土
田中 秀男	黒の魅力
言上 真舟	まぼろし
深野 怜	染付芙蓉文皿
松岡 英恵	鉄釉掛分大鉢-B
高橋 悟	灰釉掛分線文鉢
吉満 俊久	信楽焼メ花器 樹
廣田 香	趙子龍
辰井 康雄	花器・ジャカランダ
芳賀 裕子	Growth
芳賀 信夫	慈しみ
佐藤雅一郎	みやび（雅）
山㟢 直子	ア.Saanかなっ？！プレートセット
藤原 祥	私（器）・スポットライト浴びたいの！
工藤俊太郎	備前壺
中井 昌子	黒泥百合絵扁壺
峯尾 菜美	BLOOM
寺田 典生	水無月
田中 成士	飛鉢・黄瀬戸花文鉢
船川 豊	真弓の巣
高橋 桂子	赤箱・黒箱
山内 茂夫	Bird View-Ⅱ
山本 真郎	雨滴湛
野村 裕之	青磁どら鉢
山本 朋子	る・ふるー
高津潤一郎	吳須絵流曲紋大鉢
曾根原 緑	絹布
保田 繁夫	練上壺
鳥海 正次	備前絹襷広口花器
大久保静香	格子花織 湖畔
由水 直樹	笹舟
後藤なおみ	雲間風
高橋 富子	集う落ち葉
天野 正彦	角大皿
三浦 静香	seed
狩野サキエ	ふゆ
藤村 公子	千輪の華

書

山田 欽也	布目ねぎ坊主文扁壺
岡 雅恵	蓋付小鉢「四季の調べ」
真貝 竜一	自由ヲ摠ム左
梅田 千晶	結文様漆革器
青山 恵	ページとページの間
代田 幸江	七宝文螺鈿小箱
小林 忠生	雷落
植草 稔	風舞
水橋さおり	ちっちゃい秋
井上美佐子	流
相沢 憲一	焼締め角壺
吉井こころ	記憶
日野 千春	虹の鉢
寺本沙香江	蒼の対話
山下 敦子	華の詩（うた）
大塚 国男	過去と未来の間（はざま）で
松本 昌樹	夜雲

安藤 憲翠	山家集
鈴木 良子	わがたてる
池上 恵峰	むらさきの
西村富美子	百人一首
和田 旺秀	雲從龍
蟻川 麗泉	静慮
大友 華清	無垢
今井 秀華	心華
藤倉 汀雪	醉古堂劍掃
中村 清園	彭澤
岡村 香醉	良寛詩
浅間 静江	短歌一首
花園 瞳子	升色紙
井上 春苑	論語 陽貨第十七の一節
山田 栄恵	五月雨の・・・紀貫之外2首
中澤 春雪	菅原道真句 他二首
吉沼 祥紅	讀書貧裏樂搜句静中忙
宮崎 葭瑤	王維詩
相沢 不逸	推己及人人心服
青木富美子	宵魚之感
大澤富枝子	正岡子規の句
大江喜幸江	冬の光
赤穂 恒子	花の吹雪
明石 清子	わがうへに
道脇 晨櫻	張東嶼詩
内堀 雪芳	題馬文璧秋山図為盧仲章賦
荒井 賀芳	周啓詩
黒川 鶴翠	徐賁の詩
黒岩 照芳	李昌祺の詩
小磯 栄芳	孫飭詩
斎藤 邦山	張氏溪亭雜興
重田 鶴耀	黃觀詩
佐藤 陽芳	李傑の詩
島村 秀芳	岑參詩
林 鶴芳	劉兼詩
森崎 愛芳	杜甫詩
大場 法翠	紅樓院應制
渡部 祥優	劉崧詩
加藤 心圓	小野小町の歌
筒井 節子	古今和歌集
吉田 青粹	新古今和歌集

佐藤 青香	貫之集より
宮田 静鏡	山家心中抄
中山 壽香	秋日送客至潛水驛
二瓶 祥舟	早春五門西望
小倉 清舟	送陸五台之任
上村 泊舟	送韓司直
橋本 紫柳	南游有感
佐藤 清紫	琴清堂詩
鶴岡 慎舟	澤畔
葛西 虛舟	早春寄華下同志
荒川 涼舟	寄友人
吉永 幽徑	白水道中
長谷川清陽	新秋寄樂天
兎澤 羊舟	別鄭蟻
深見 萌彩	夜登燕子磯
二瓶 香苑	旅興
青山 静月	山行
寺門 楊舟	自武陵至沅陵道中雜詩 其二
柿沼 柏苑	雲陽館與韓升卿宿別
横山 聖水	感懷
向後 瑛舟	寄王處士遙蒼
三宅 華子	鶯華世界如春夢
三井 邦之	露荷散清香
相澤 尚子	近作三種
中島 成子	滿架薔薇一院香
古河原昭二	杜子美詩旅夜書懷句
早野 芳蘭	利段
越智 麗川	陸游詩
富岡 真華	秦州雜誌
富岡 登	岑參「逢入京使」
四季 茜歩	袁宏道の詩
古橋 鯉水	感懷其一
水川 芳竹	礎盤
田辺 談窓	柳宗元詩
川上 麗有	杜審言詩
菊池 祥賀	蘇軾詩二首
町田 祥馥	厲鶚二首
松永 光鳳	枕草子より
森田 久壹	古詩から
森田太祐子	遍寒乾坤
下元 原祁	綿連澧川廻

山田 華映	杜甫詩二首
伊藤 湘理	涙のドロップス
葉山 りら	藤村の詩 春はきぬ
高木 昌子	三好達治の詩から
川橋 悅子	ビールには
堀内 早苗	王粲詩
秋山 克彦	虛堂懸鏡
佐久間姜湘	吉田一穂「母」より
黒木 喬	鴛鴦之契
齋藤 竹泉	華胥之夢
國峯 正美	秉志崇清真
田澤 星雲	溢実過實
善入 正英	燧火人鑽
中出 ゆり	飲灰洗胃
向井美佐子	兵車行Ⅱ
武藤 和雄	萬物一斎
後関 寛道	意領身隨
宮川 昌翠	董作賓詩
山岸 青城	その子二十…
楠井 杏花	遊銅井山
大澤美佐子	秋のうた
小林 廣洲	無題
石田 子鳳	寿而藏
齋藤 游石	杜審言詩
塚田 濤石	李頤詩
佐藤 紫彩	篠原鳳作の俳句
竹内千恵子	田部井花子の歌
青木 湘堂	蛙埜寧詩 値千金
森田 新菜	雨上りの琉璃廠
中山 政子	草に隠れて
入澤 亮太	田部井花子の歌
松田 紀子	森の息吹
平出 節子	見付拓の詩
堤 智子	朝餉
小林 千幸	月の零
宮地 晶子	悠久の願い
片平 喬子	石川啄木のうた
平船 清流	蝶
平間 秀慧	私と小鳥と鈴と
本間 琴秀	月の魚より
松本 弘子	雨あがり

久村 拓司	赤羽根裕の写文集 四季より
山下 右溪	堀内幸枝の詩 崖の村
高橋 梅香	上田三四二の文
守屋 栄雨	出雲遠景
相馬 澄月	朝を愛す
小倉 清子	春宵
岸 秀泉	浜 千鳥
平井 美穂	月のお舟
佐藤 芳舟	あけがたの虹より
玉田 まみ	てがみ
馬場 虹苑	八木重吉の詩 花がふってくると思う
柴本 華雪	宮城谷昌光 晏子
深瀬 秀苑	夏目漱石の句
廣川 心齋	明本梨江の詩 逃避より
上野 春海	自作 オーストラリアグリーン島の夜
福本 泰子	尾崎左永子の歌
青野 直子	風
小野寺悦子	花透き通る朝
土屋 郁英	初秋の庭に
鈴木 玉恵	春宵
松本 亘正	李章武詩
高橋 麦宇	孫陽顧詩「登塔」
大庭 晴籟	斬釘截鐵
岡田 珠美	賀・四季の和歌
玉井真知子	百人一首抄
河又世津子	夕されば
田辺 翠香	伊勢物語
塩澤 鶯州	天地の
勝山 栖香	白鳥
四壁 透	九々帰一
井澤 洋高	邨居初夏
菊島 右雪	甲骨文
菅井 穂谷	杜甫詩
加藤 晴泰	春帰 杜甫詩
茶木 静萌	咸陽城東樓
和田 静月	張説詩「幽州夜飲」
鈴木 青秀	王漁洋詩
長野 菁溪	吳蘭雪詩
安地 翠石	明詩奚濤詩
新 景園	王洪詩
猪俣貴美枝	李太白詩

土屋 景暉	陳宗之詩
根岸多江子	李青蓮詩
阿部 馨月	葛の花
米澤 千松	なびき寄る雲のすがた
柴田 李笙	夏目漱石詩
片岡 巖山	性靈集
成田 紫鶯	古今和歌集より
中村 蒼碩	晚過青河驛
西澤 蒼海	劉元震詩 月下聽琴
佐々 蒼江	宿巴陵聞笛
武田 秋陽	富士の高嶺
板越 蒼龍	崔濮陽兄李重前山興
村上 湖翠	溝萩
佐々木永隆	つみ草
鈴木 天鳴	横溪
牛山 香流	山中流泉
鈴木 静耕	西楼晚眺
池田 莊春	遊春
神藤 莊松	秋思
岩崎 勝涛	酬陳孟敷見寄
木下 淑泉	將過江陰訪朱善繼途中風雨乃回
野頭 莊雲	夏目雜興
小田 明雪	奉和春日幸望春宮應制
小山 莊雪	九日陪李上猶登高
武田 瞳処	易恒詩
槇 緋呂	李益詩
添田 紫苑	和孫太守朝望
浅見 玲湖	張若虛詩 春江花月夜
木下 清華	かくてなほ
田村 京子	唐彥謙詩
神山 紅雲	李白詩 江上吟
飯田 容風	良寛のうた
浦 堯秀	過龍灣五王閣 訪友人不遇
下門 芳子	麦笛
飯淵惠美子	夏は来ぬ
上田 尤華	山行（杜牧）
原 龍児	達人大觀
春木 環	運轉亡己
葛岡 忠成	龍蟠虎踞
藤井 裕史	學原於思
猪野 光舟	樂天知命

写真

米山 悅朗	叫び
長谷川文夫	さびれてしまった水郷 烏鎮（ウチン）
奥田 恭子	佃島の変貌
関谷 盛男	くつろぎの空間
古澤 直代	記憶
小泉 興達	水垢離
原田 健兒	花 折々
小菅 皇夫	迷宮の人々
市川 正	冬山点描
野沢 敏晃	雨ヤマズ
草野 宗則	虹の薔薇
黒柳陽二郎	THE WALL I
高野 好旦	精靈の森
佐藤 雄司	パリ⑨
鈴木 茂	利根ノ川原
古郡 和敏	震災復興闘牛
中島 倍三	宇宙
佐藤 忠	短い一生
中山洋之助	坂道
竹山 保男	都市空間
武藤 安弘	GINZA ST.
小田柿雅彦	気まゝな生活
元上 徹夫	化粧
松浦 洋子	步步是道場
白崎 裕彦	旅立ち
大出 光信	街角の二人
内田 芳雄	清流のヒスイ
日下部悦子	凜
久保田東一	深雪
鈴木 安広	公認どろんこ塾
村木 捷夫	作品 I, II, III (廃バイクの抽象画)
氏家 充	波濤
小菅 昇	希望
石井みのり	当選確実
西沢一比古	普遍な日日
三枝 昌弘	HUNTER
桐畑 政義	生きる
大久保忠宏	虚構の限界
金親 敏雄	終焉

岡松 桂子	一隅の季節 I
徳重 和子	綺羅
高村 藤雄	怪物
清水 治弘	見張り役
高橋 春生	晩秋
中村 守	温りの郷
宮坂 猛	'68青春群像
羽鳥 博隆	時は流れて
田中 典子	都市の異景
斎藤ひろ子	お一苦い
畠山 英治	草原のハンター
笹尾 敏子	朝霧
福谷 敏明	観衆の笑顔
乾 清一	傍迷惑な猿
野村 朝治	花露
三谷 享	アブストラクト
小島 輝夫	好天前穂高
高橋 洋子	断崖航路
伊東 康廣	艶櫻
佐々木正平	雨上がりの故郷を親しい友と歩く
津田 祥夫	話のカタチ
古屋 光雄	水源の森
上原 勝夫	月明
大西 紘昭	バトル
秋本 富男	時空
神谷 洋子	野原の宝石
関口 幸雄	残照
今野 良一	市場の朝
相原 新一	瞳
南 幸子	暮色の田子海岸
野瀬ゆき子	路地裏の昼下り

工芸

今展の工芸部門は、208名257点の応募に対して入選106点、うち9点が受賞した。応募者数、総点数ともに前回よりやや増加したが、全般的に一定の水準に達した作品が少なくなかった。それはそれで喜ばしいことではあるが、審査を進めるにつれて基準をどこに定めるかが困難になる。論議を重ねて審査にあたった結果、今回選出された受賞作にはふたつの傾向がみられた。一方は工芸以外の近・現代美術よりの志向によって他との差異を明らかにする作品、他方は素材・技法の理解とスタイルとが工芸の枠組のうちで破綻なくまとまった作品である。前者には幾らかの既視感が、後者には主張のおとなしさが認められるかもしれないが、いずれも相応の実力を有することに間違いない。本展での受賞を契機に、工芸という造形の特性とその活動領域が再考されるとともに、さらなる活躍を期待したい。

大賞の吉田晴弥「源の始まり」は、角をしっかりと立たせながら土のやわらかさを宿し、高さ65センチ、幅48センチのボディが3点並ぶところはモニュメンタルで印象的である。本作では抽象絵画を想起させる図様が各々の4面に配されているが、これらは碑のような作品の印象を強調するためか。上部の穴から覗く構造体を見せない、あるいは自立のために異なる方向性を探れば、より緊張感を伴った存在を示すことが可能となる。

準大賞の渡辺季代子「森羅」は、藍色のグラデーションに染めた支持体に、伸縮性のある青色の布を中心と端でテンションを調整しながら固定して、主要なフォルムとした。内側からは照明が灯って布を青色に染め上げ、また表面には、やや立体感のある顔料で引かれた無数の線が走って、作品にざわめきをもたらしている。この人工的効果の追求に、早い段階から注目する審査員の姿もみられた。

特選は4点。岡崎まりこ「記憶の中の夏」は、関節など有機的つながりにおけるデフォルメが全体の調和を些か乱すところに惜しむ声も上がったが、女性像の姿勢に作者の意欲が強く伝わって注目が集まった。上原恵美子「大地の恵」、貴田洋子「森に舞う」、十倉滋子「星空点々」は、それぞれ異なる手法ではあるが、文様が単なる装飾性を越えた表現として高評価を受けた。上原の並列する色彩の輝き、糸に託された貴田の意志の力、十倉の糸足の絶妙なニュアンスなど、素材・技法の魅力が生

きて静かな存在感を放っていた。今後デザインの洗練が、各自が選び取った表現手法の深化を進めるものと思われる。

美術奨学会賞の池田節子「精」、上野智恵「彩」はともに透明感が豊かな表情をもたらした。どちらもアイディアが突出せず、素材・技法と調和しながら作品を結実させ、現代的な感性を伝える点が好印象であった。大塚学院賞の今林三恵子「畝」は、丹念に叩かれた鎌目があり出す文様が銀の素材感、シンプルな器形と相まってモダンな作品となった。

(今井陽子)

書

篆刻が新しく加入した神奈川県美術展の審査は、なかなかに活気あるものであった。篆刻の出品は50点。全体の出品点数は、この数が上乗せされて然るべきだが、総点数は316点で、昨年に比し実質減となった。

点数が最も多い漢字は160点で、半数を超える。その過半は行草作で、この県の書道が伝統的な範疇にあることを物語る。ただ、作品の精粗が目立つのもこの行草作であった。入門しやすい反面、鍛錬度を問われるのもこの分野である。

審査に参加して気になる傾向が二つあった。一つは技術主義へのよりかかりであり、一つは自分の感覚に酔う傾向である。前者は、鍛錬度が発揮されれば、作品に深さが生まれる。反面鍛錬度を欠くと、一種の低回趣味におちいる。そして、低回趣味におちた人ほど、感覚に酔う。

この欠点を正すために、審査機能が行われるわけだが、316点の出品で214点入選では、指導が行われにくい。

私は県展は、新しい才能の発掘と、書道振興のためにあると考えるが、審査のコンセンサスをかように発揮させるべきには、もう少し厳選が好ましいと思う。矢張り、もっと出品増を計ることが、いま県展に最も求められてはいまいか。

仮名は出品数が少ない割に粒ぞろいで、技術水準の高さを感じた。近代詩文は、昨年、一昨年共に出品の少なさを嘆かれていたが、本年も59点にとどまり残念であった。篆刻はあまり精粗がなく、この分野の人気を思われた。

大賞の矢島虹周「小倉山」は、薄桃色の料紙に濃墨が映え、圧倒的支持を得ていた。準大賞の日吉青溟「感春

雑詠「其一」は、楷書作で、筆づかいがみずみずしい。ある感覚を印象づけられた。29歳の年令は新しい才能に適わしい。特選では横山翠扇「山河の瀬」が鍊達の作であった。行の流れと墨量配分に特色があり、大賞に入ってもおかしくない作であった。庵蒼淵「守仁詩」、藤野菁浦「李東陽詩」も印象に残る。筆をごまかさず、細部まで書き切る姿勢は好感が持てる。篆刻の奥野知行「好球必打」は、円印に四字を収めた布字に感覚の良さを出していた。その他の受賞作では、山本枝折「神隠し」より」が濃墨と白の対比が美しく、竹内菜緒「トンパ文字 塗る」は題材の面白さで引きつけていた。茂住菁邨「候贏」は、この人年来追求する古代文字である。かねて聞く書き手の久々の受賞を喜びたい。

書道王国と呼ばれて久しい神奈川県で、書部門の出品が少ないのでなぜだろう。搬入時期に一つの問題がないか。この時期、東京では新聞社主催の全国公募展が三つも開かれる。当然、その公募展に応する人々は、県展に応募しにくい。審査に立ち合うと、県展応募者の過半は、どこかの団体に属して作家活動をしていることが判る。何か搬入時期をずらせぬものか。主催者に一考を求みたいと思う。

(西嶋慎一)

写真

県美術展の写真の応募傾向は、近来、各年ごとに、わずかずつふえてきていたが、今回の応募点数もまた昨年を上回り、1034点（応募人数297人）を数えて、はじめて四ヶタをマークした。県展における応募写真の上昇気流にいくらか拍車がかかりつつある状況を示しているようにも思えるが、一方、作品の内容面でみれば、かならずしも手放してよろこべる状態ではないようだ。

このところ毎回のように指摘されているが、今回もまた、日常スナップやドキュメント・タッチの写真がほとんどみられず、全体的に技巧的でマンネリ化した発想の写真が大半を占めていたように思える。ミナト横浜の現代の「今」をダイナミックに表現するいきいきした「都市写真」なども期待したが、ほとんど見られなかった。やはり地域独特の風土性を暮らし感覚の中に表現して現代を浮き彫りにしてみせるのが本筋であろう。とは言っても、にもかかわらずと言うべきか。上位にマークされた作品群は、一応それぞれ注目するに値する表現力量を

示していたと思える。

大賞になった市川雅章「夢売り場」は、薄暮のそぼ降る雨の中、帰宅の途中か、通りすがりに宝くじを買い求めている情景が過不足ない的確な描写で表現されている。雑然と密集した小看板も「質屋」「産婦人科」「一億円」と、生きにくく格差社会の中の一隅を照らし出して秀逸。高層ビルをバックに掘立小屋の宝くじ売り場も絶妙の取り合わせで、ほんのささやかな夢芝居の一幕か。「夢売り場」というタイトルが効いた。小品とはいえ、イメージのふくらみはなかなかのものだ。

準大賞の田中洋一「苔むす戦痕（せんこん）」（三枚組）は、今も残る先の大戦の弾痕を凝視するが、そのなまなましい痕が戦後62年の歳月を感じさせないほどに切実である。大戦の記憶が風化していくなか、最近では、当時の軍需工場や壕や飛行場などが「戦跡考古学」の対象として浮上しつつあるが、「戦争と平和」への思念を写真行為として具現していく貴重な証しだろう。

特選6点について言えば、荒島謙一「永い眠り」（三枚組）は、問題山積の介護状況の中で、死に至る老後の現実をえぐる作品。壁のはり紙の「敬老の日、おめでとう」がそらぞらしい。

長尾宏「風が見える街」（三枚組）は、残り少なくなった下町の路地風景が実にあざやかだ。貧しかったが、向こう三軒両隣の人情の町だった、なつかしい日々。タイトルも抜群。

坂巻孝「子供天国」（三枚組）は、気張りの一切ない写真で、のびのびと遊ぶ子供の世界を夢のひとコマのように撮った良さ。

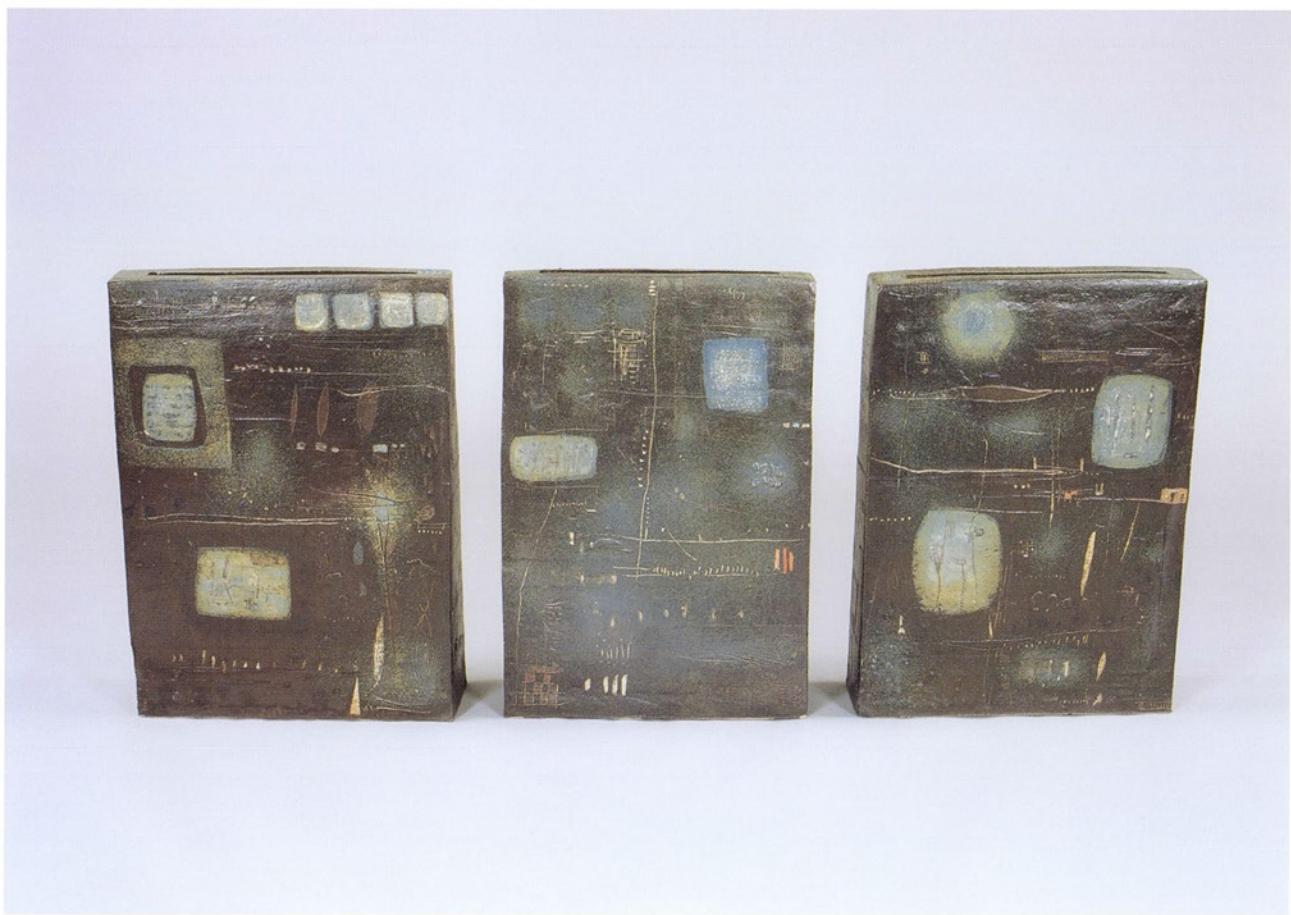
高浦正幸「記憶の向こう」（三枚組）は、日常にふとよぎる遠い日の残影。旅愁。訣別。失郷…技を効かせたフォト・ポエム。

黒野秀子「遊び終えて」は、遊びにつき合って疲れた母の愛情が、もみ洗いしたシャツに——何とも奇妙なユーモラスな一枚。

宮坂駿一「排気筒」の見所は、町工場か何かの排気筒に敬意ともいえる関心を抱いてあたかも史的な異形扱いのように細密描写で立ち上がらせた描写力量であろう。

紙数が尽きて、他の賞に言及できないが、今回は、上位11賞のうち7人までが60歳以上の高齢だったことを付記しておく。

(岡井耀毅)

**大賞 源の始まり：吉田 晴弥**

陶芸 10×48×65cm 25Kg

[略歴]

1975年 川崎市生まれ
1996年 東京藝術大学美術学部工芸科入学
2001年 東京藝術大学陶芸専攻大学院修士課程および研究過程修了

[受賞歴]

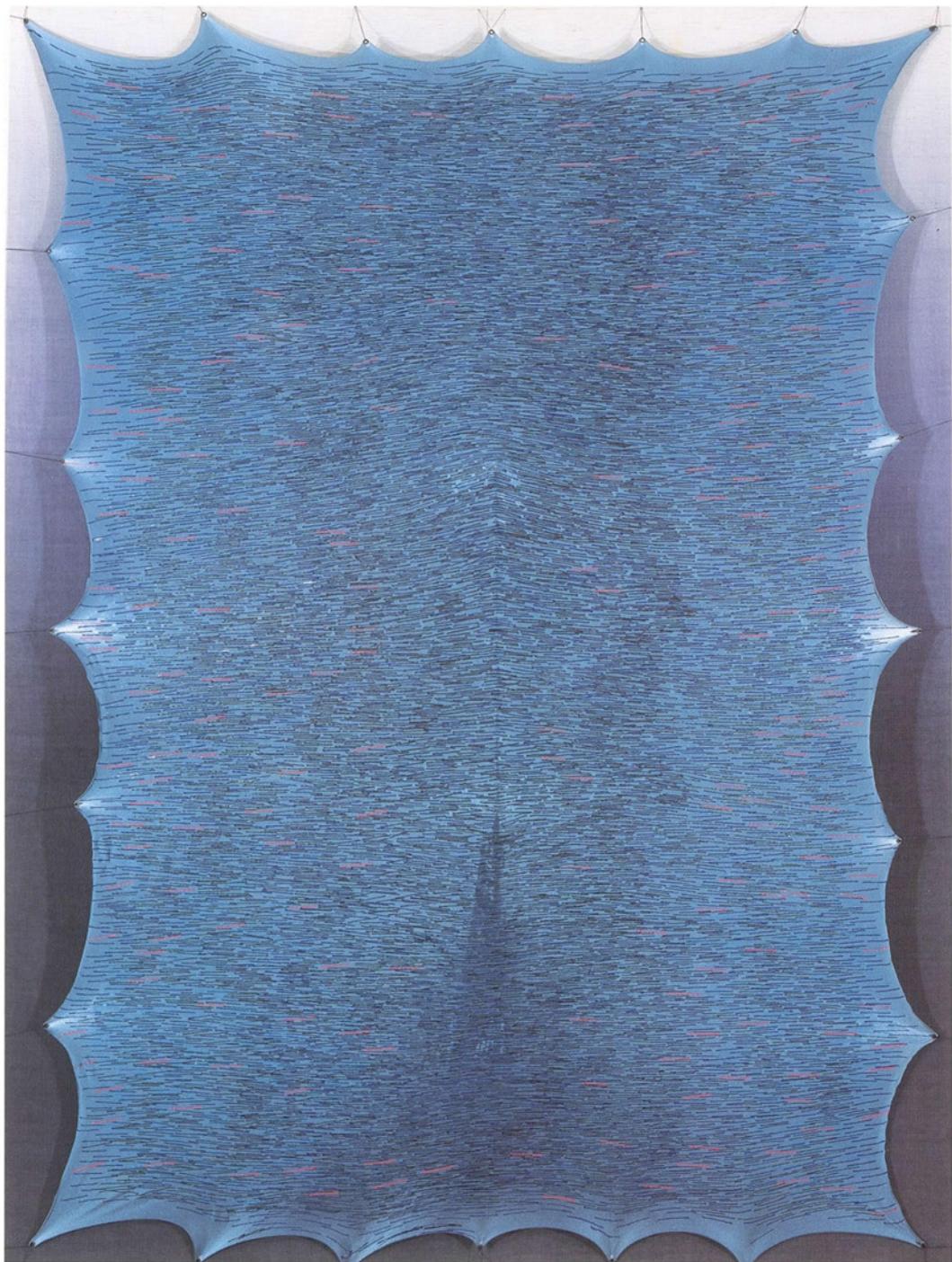
1996年 原田賞
1998年 サロンドプランタン賞

[出品展]

2007年 日本陶芸展入選

[展覧会歴]

1999年 個展「つながりゆくもの、ながれゆくこと」 新宿 札幌INAXギャラリー
2001年 個展「陶飛行」 大富 ガレリア田
2002年 個展「空間工芸」 青山 桃林堂
2003年 個展「∞」 青山 eel's bed Gally
2005年 個展「Hallelujah」 恵比寿 connected tokyo
2006年 個展「梵岩」(峯地氏とのコラボレーション) 青山 桃林堂
2007年 個展「いのたま」 外苑前 Gallery 蓮
個展「つながるいのち」 福島県 Art space ELICONA



準大賞 森羅：渡辺 季代子

染色 180×150cm

[略歴]

1965年 千葉県生まれ

1988年 大塚テキスタイルデザイン専門学校卒業

現在 現代工芸本会員 神静会会員

[受賞歴]

1993年 千葉県展 市長賞

2000年 日本現代工芸美術展 工芸賞

2001年 現代工芸巡回企画展 会長賞

2005年 千葉県展 知事賞

2006年 千葉県展 教育長賞

[出品歴]

1990年～2007年 日本現代工芸美術展 入選

1993年～1995年 金沢工芸大賞 入選

1998年 現代工芸ドイツ展「日本の染織」出品

1999年 日展 初入選 以降4回入選



特選 森に舞う：貴田 洋子

織 パネル 150×150cm



特選
星空点々：十倉 滋子

染織 麻 経耕 織り込み 350×88cm



特選

記憶の中の夏：岡崎 まりこ

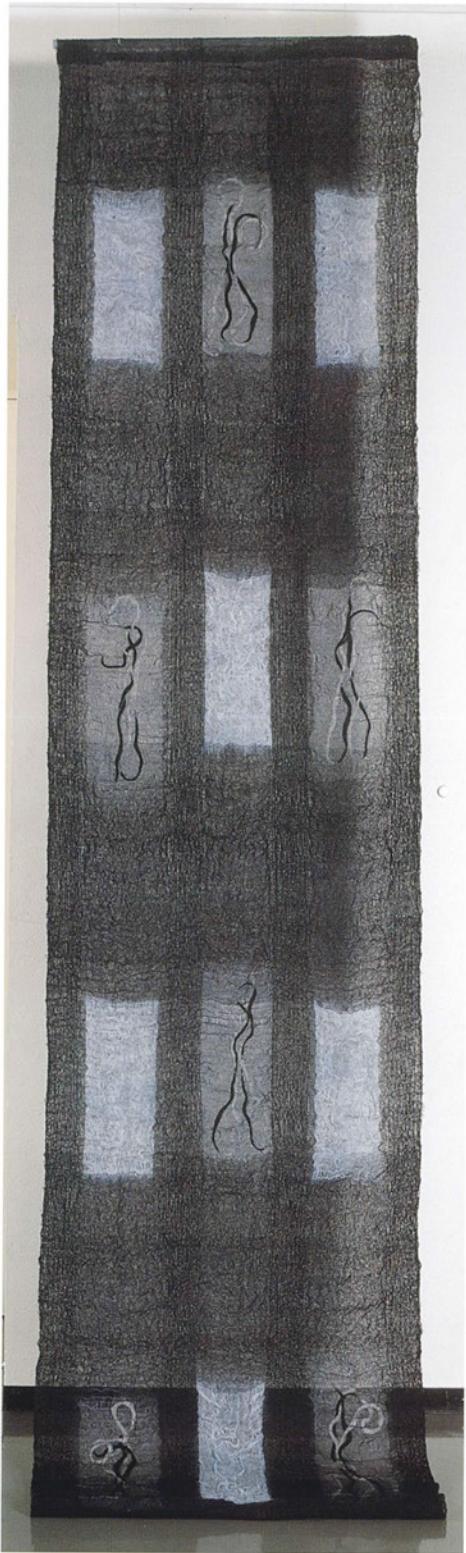
人形 桐 石粉 粘土 胡粉 35×37×80cm 3Kg



特選

大地の恵：上原 恵美子

七宝 110×85.5cm



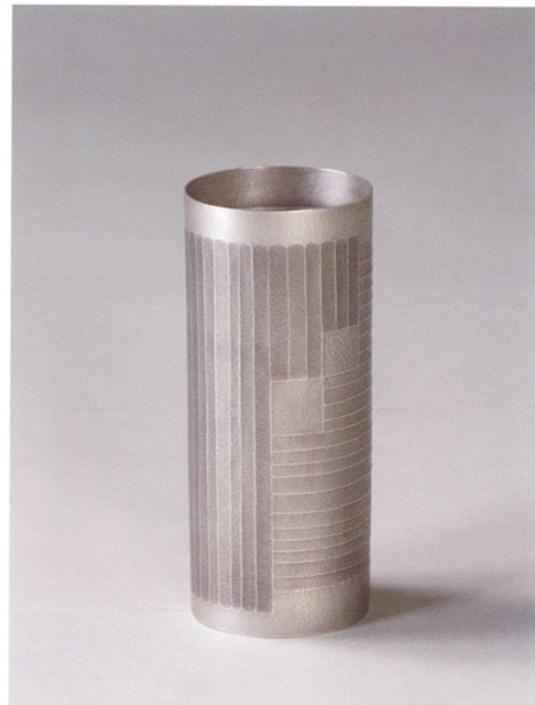
美術奨学会賞 精：池田 節子

染織 380×85cm



美術奨学会賞 彩：上野 智恵

ガラス 21×22×12 2.1Kg



大塚学院賞 銅：今林 三恵子

鍛金 銀 8×10×24cm 800g



大賞 小倉山：矢島 虹周

61×182cm

[略歴]

1949年 横浜市に生まれる

1996年より神奈川県美術展にて入選10回

2005年 毎日書道展にて毎日賞 ほか佳作賞2回

インテリアの書展にてダイヤモンド賞 ほかエメラルド賞、ルビー賞

2007年 横浜書人会展にて準大賞

漢字 (故) 大島嵩山に師事

仮名 三宅相舟に師事

曉朝詩
對日朱雲好
滄乃在湘江
綠枝聲遠客
王峰被過人跡
遠道乃嘆
詠非舊爲故復何悲
青渢書

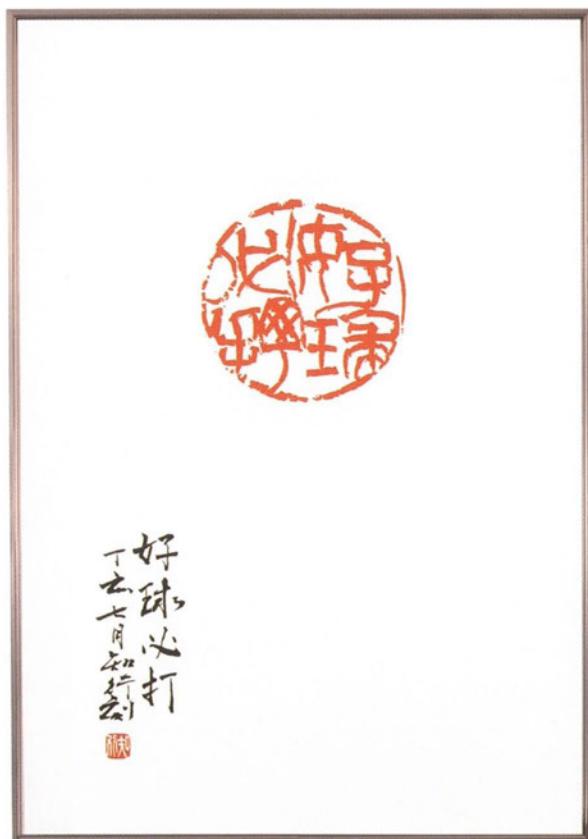
準大賞 感春雜詠 其一：日吉 青渢

182×61cm

〔略歴〕

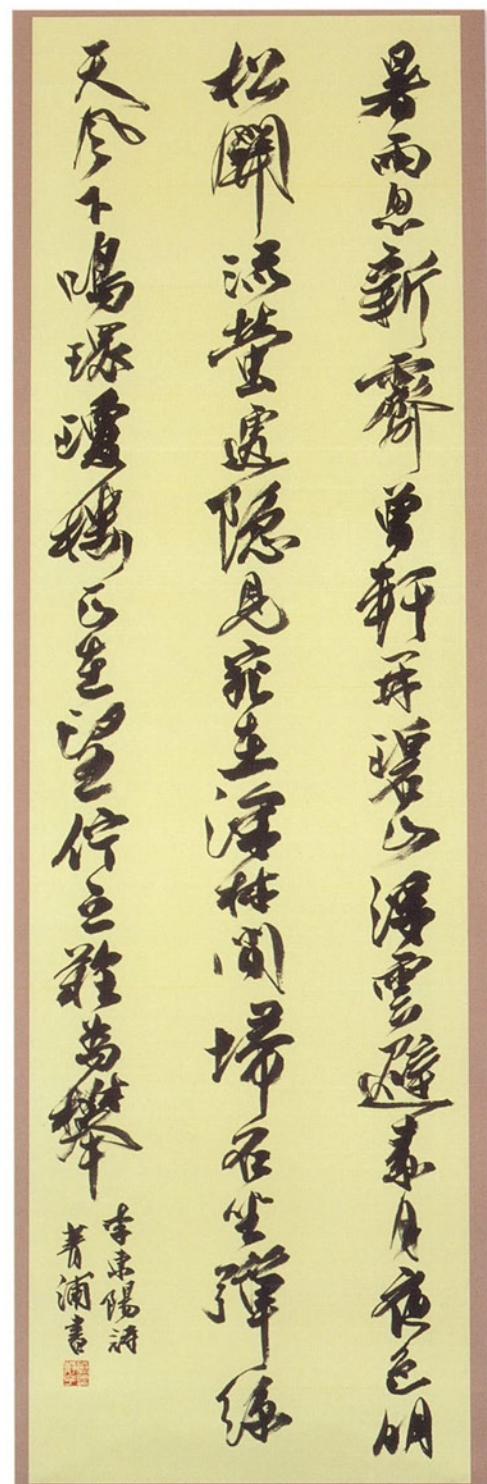
1978年 湯河原町に生まれる

松浦北龍・田丸青蘭に師事
毎日書道展 佳作賞 1回
神奈川県美術展 入選4回



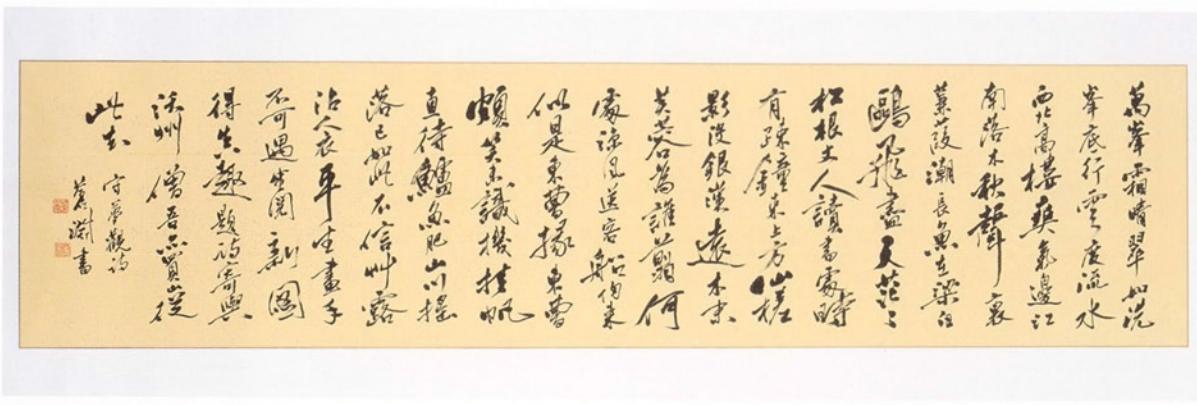
特選 好球必打：奥野 知行

39×30cm



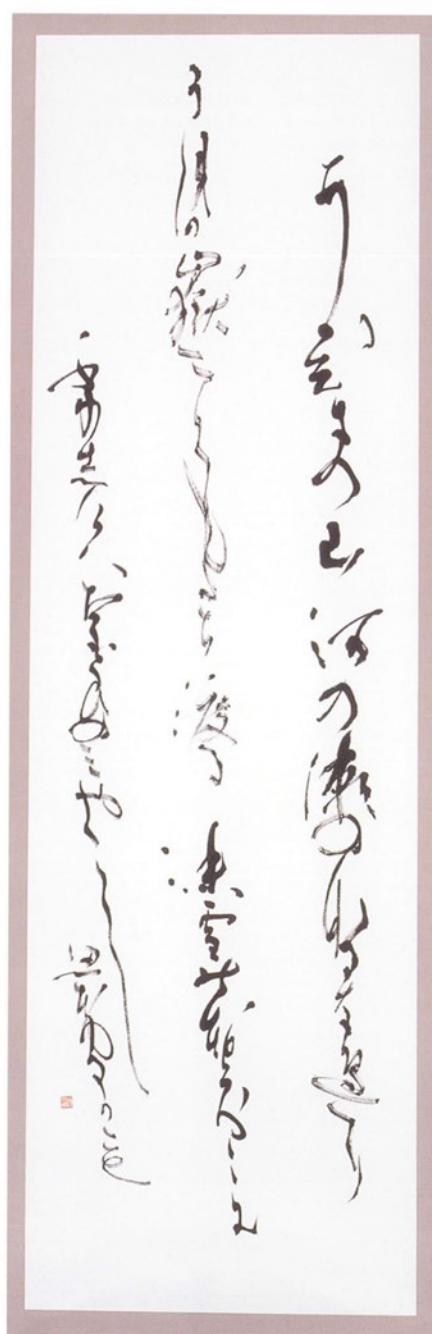
特選 李東陽詩：藤野 蒼浦

182×61cm



特選 守仁詩：庵 蒼淵

61×182cm



特選 山河の瀬：横山 翠扇

182×61cm



美術奨学会賞 侯贏：茂住 菁邨

91×121cm



美術奨学会賞
「神隠し」より：山本 枝折

152×73cm



神奈川県文具事務用品団体連合会賞
トンパ文字 塗る：竹内 菜緒

91×121cm



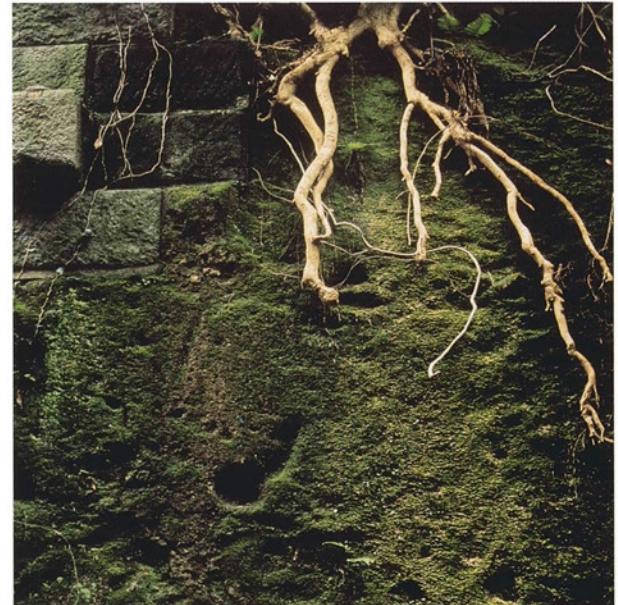
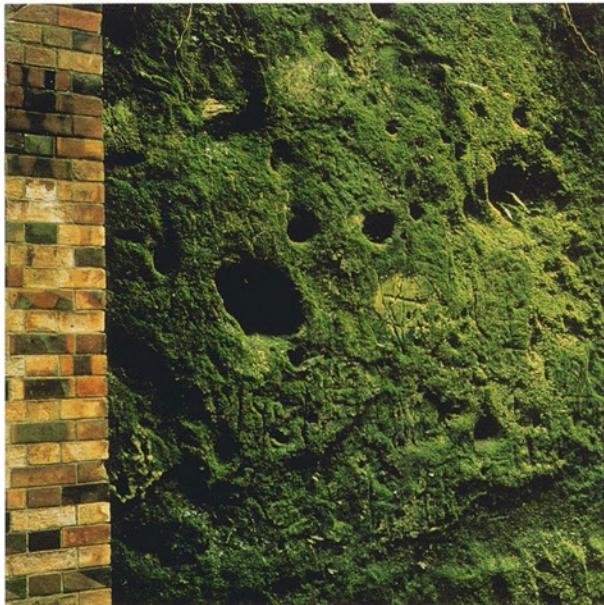
大賞 夢売り場：市川 雅章

[略歴]

1939年 東京都に生まれる
2005年 第41回神奈川県美術展 美術奨学会賞
2006年 第42回神奈川県美術展 特選

[現在]

横浜市に在住
神奈川県写真作家協会 理事
ハマ写真家集団 会員

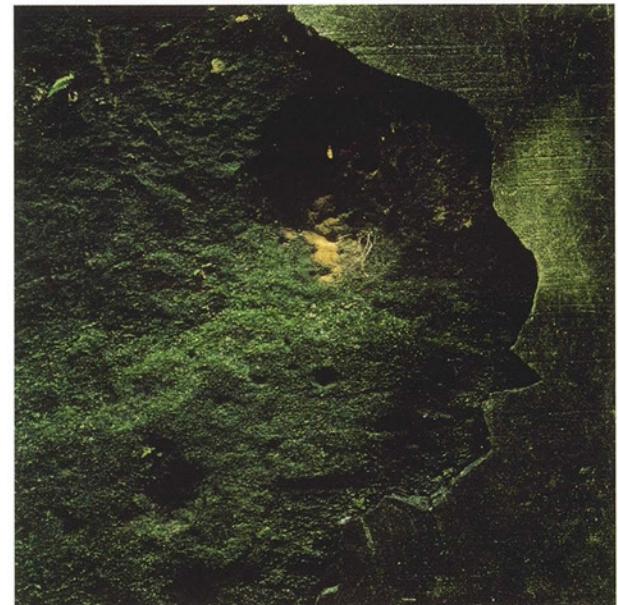


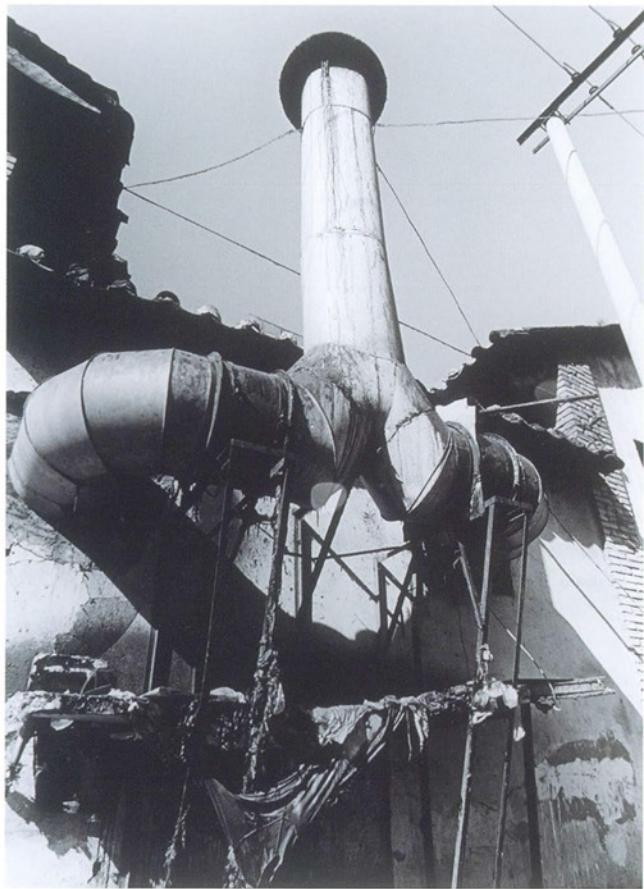
準大賞 茅むす戦痕（せんこん）（3枚組）：田中 洋一

【略歴】

1943年 藤沢市生まれ
1982年 職場の写真クラブで活動を開始

日本写真会会員
総合写真展に入賞
鎌倉芸術館で個展「桂林山水の今昔」開催
中国の新聞「桂林日報」に撮影活動、個展活動について掲載





特選
排気筒：宮坂 駿一



特選
遊び終えて：黒野 秀子



特選
子供天国（3枚組）：坂巻 孝

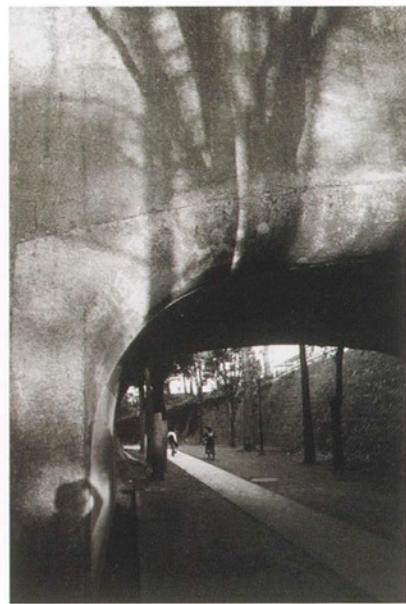


特選
風が見える街（3枚組）：長尾 宏





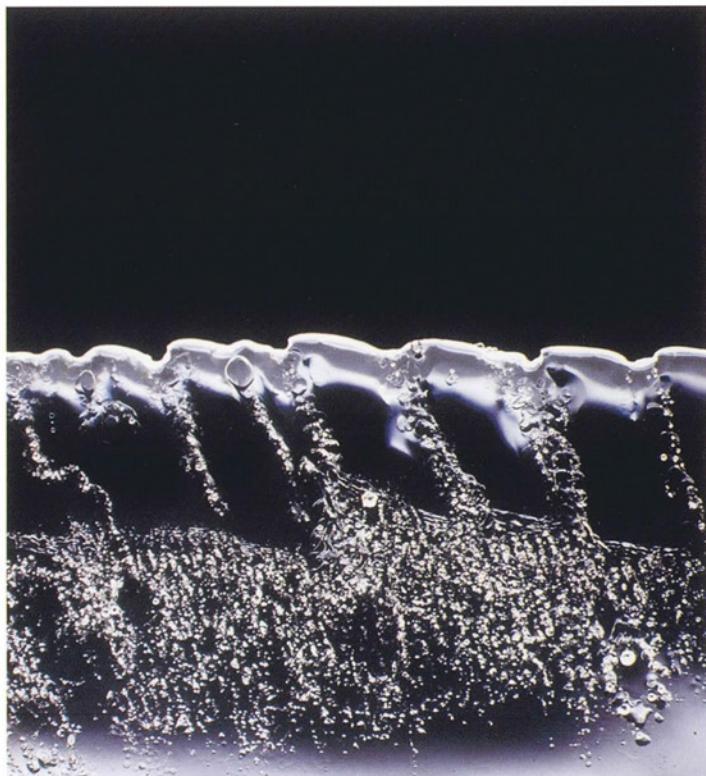
特選
永い眠り（3枚組）：荒島 謙一



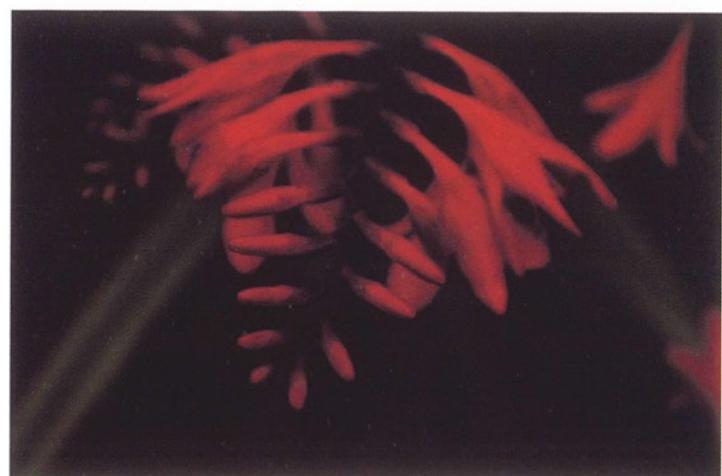
特選
記憶の向こう（3枚組）：高浦 正幸



美術奨学会賞
スクランブルの間（3枚組）：和田 湖人



美術奨学会賞 旋律の湧くとき：谷田 梶歌



ニコン賞 静かな季節（3枚組）：星崎 裕基

出品点数一覧表

	平面	立体	小計	工芸	書	写真	小計	合計
人数	305人 (102)	73人 (19)	378人 (121)	208人 (106)	316人 (214)	297人 (81)	821人 (401)	1199人 (522)
点数	440点 (102)	76点 (19)	516点 (121)	257点 (106)	316点 (214)	1034点 (150)	1607点 (470)	2123点 (591)

※()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画	第16回 55年度 和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画	第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 參平『BODY』工芸
第3回 41年度 垣内 治雄『坐る』彫刻	
第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第18回 57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第5回 44年度 山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹囲松影』書
第6回 45年度 伊藤 桢『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『盧子諺詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	第20回 59年度 東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 豆『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵒『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・サンダー(フェリス女学院)』写真	第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 卿舟『良寛詩』書
第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画	第24回 63年度 三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第25回 平成元年度 セツ・ズスキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	
第13回 52年度 井上 麦『黒の女-77』彫刻	第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形	第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋 I, II』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	

第28回	4年度	たべけんぞう「MAGNETIC FIELD92-2」立体造形 中森 万象『郎士元詩』書	第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 板木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I-V』写真
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第39回	15年度	井上 達也『権勢 II』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても…』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晓雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2枚組)』写真
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域一群像 I』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネバール)』写真	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝朓北楼』書 商 家訓『路傍の華 (3枚組)』写真
第33回	9年度	劍持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真	第43回	19年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第34回	10年度	笛井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『MI! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真			
第35回	11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斎藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稻葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真			
第36回	12年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラパゴス)』写真			
第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女睡私1.2.3. (NUDE)』写真			

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■本店文具館 イセザキ町・本店文具館4F・5F … TEL.(045) 261-1231

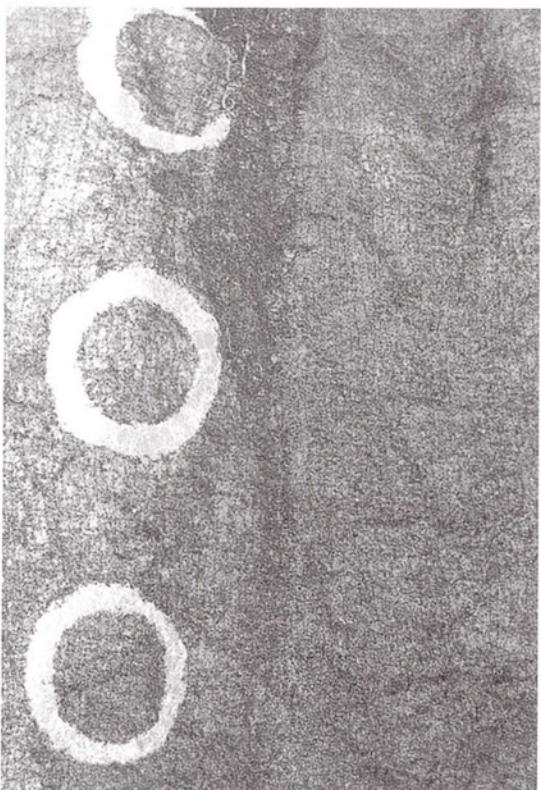
■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル2F……………TEL.(0466) 26-1411

■厚木店 小田急線・本厚木駅前……………TEL.(046) 223-4111

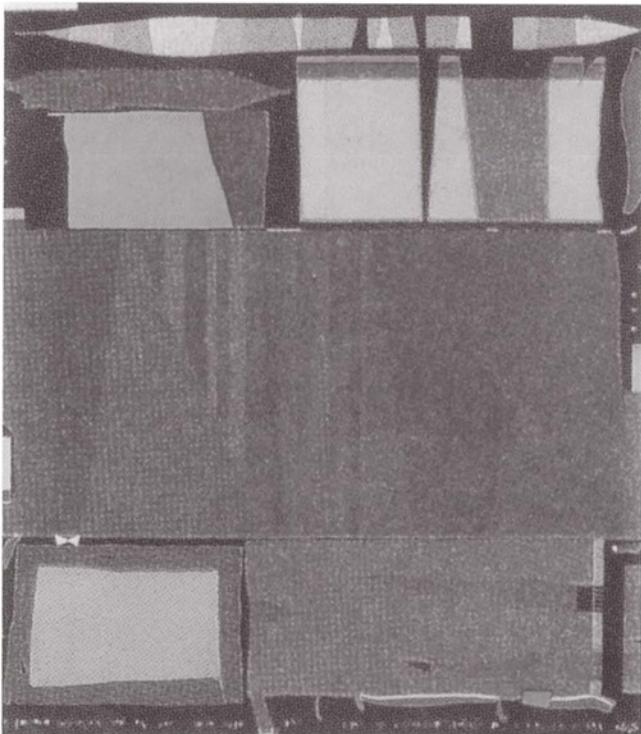
※藤沢店は書道用具・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉

布の赤字を 創る



帯瀬由紀子
ジャパンクリエーション2005
染糸部門賞



資料・願書無料送呈

学校見学随時

学校説明会6~3月

◎入学願書受付 推薦入学 10月1日~1月31日
一般入学 11月1日~3月31日

◆学科構成◆

テキスタイルデザイン科 (昼2年80名)
工芸染織科 (昼2年40名)
友禅染色コース
伝統織物コース
プリンティングデザイン科 (夜2年40名)
ウィービングデザイン科 (夜2年40名)



大塚テキスタイルデザイン 専門学校

(姉妹校) 大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 FAX 03(3226)9745

URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp
ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k>

平野朱美
第37回 日展
入選

More Effective Communication

私たちは、時代のニーズに応えて、情報の新しい価値を創造します。

たいせつなものをもつとたいせつに。

情報に命を吹きこむ

データベースパブリッシング
マルチメディアに対応
オンデマンドサービス
バリアルブルプリント

個人情報をたいせつに扱う

万全なセキュリティ対策
プライバシーデータを保護

環境にやさしい印刷

再生紙・非木材紙
水なし印刷
植物油インキ



あなたの本づくりをサポートします。

「日本自費出版ネットワーク」の会員である野毛印刷の自費出版サービス。

プライベートでつくる本の制作・印刷・出版をお手伝いさせていただく、自費出版サービス。1冊だけつくりたいという方から本格的な自費出版まで目的に応じてお受けいたします。自分史、エッセイ集、小説、詩集、画集、写真集、絵本、歌集、遺稿集…。なんなりとお気軽にご相談ください。

●馬車道の印刷ショップ「アトラス」中区相生町5-79 ☎(045)641-4132

●クリエイティブスタジオ「acb」中区相生町5-79 アトラスピル4F ☎(045)201-8263

プライバシーマーク 使用許諾
ISO 14001 9001 認証取得

 **野毛印刷**

営業企画本部／横浜市南区新川町1-2 〒232-0027

☎(045)252-2511

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

金沢福浦工場／横浜市金沢区福浦2-4-1 〒236-0004

<http://www.noge.co.jp>

第43回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成19年9月12日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 副委員長

原 範行 福江 裕幸

委員

相笠 昌義	岡 信孝	鷗 剛	辰野登恵子
原田 光	山梨 俊夫	今井 陽子	永井鐵太郎
仙場 右羊	船本 芳雲	村岡 秀男	山田 信次
佐藤 清	松本 浩		

審査員

平面立体

岡 信孝	北澤 憲昭	坂口 寛敏	鷗 剛
橋 秀文	松本 昰	母袋 俊也	

工芸

池本 一三	井上 壽博	今井 陽子	佐野登志子
須田 賢司	永井鐵太郎	平井美智子	

書

小川 對山	川口 流坡	川村 玄舟	齊藤 紫香
西嶋 偵一	船本 芳雲	堀 天鶴	

写真

江成 常夫	岡井 耀毅	熊切 圭介	前田 利昭
村岡 秀男	山田 信次	和田 久士	

The 43rd Kanagawa Art Exhibition 2007

第43回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業課内

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL. 045-633-3687

写真撮影：(株)菊屋写真工房

印刷：(株)野毛印刷社

発行：2007年9月12日

神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県